

お笑い神事由緒

この神事は当社主祭神、応神天皇のご生誕時を表した神事と伝えられております。

はつきりとした文書等で残されているものではありませんが、古老の口伝にて連綿と受け継がれてきた当社固有の珍しい神事です。

皇紀八五九年（西暦百九十九年）応神天皇の父君・第十四代仲哀天皇は熊襲討伐の為（熊襲：九州南部に本拠地を構え、ヤマト王権に抵抗したとされる人々）、妃の神功皇后と共に筑紫の国（現在の福岡県西南部）にご進幸になられました。

その時、香椎宮にて神懸りになられた妃の口から、熊襲討伐よりも、宝のある新羅（現在の朝鮮南東部）を攻めよ、との神託をお受けになりました。しかし仲哀天皇はこれを信じず、神を非難した為、翌八六〇年に熊襲との戦いに敗れてこの地で崩御なされてしまいます。

その後、妃の神功皇后が摂政に就任されましたが、この時すでにご懐妊されていたそうです。住吉大神の神託により朝鮮に出兵され、見事三韓征伐（三韓＝新羅・百濟・高句麗）を成し遂げられた神功皇后は帰国後、筑紫の国は加多の浜・宇瀨（うみ）という地で、応神天皇をご出産なされました。その時、鳩が皇子をお育て申し上げた、との言い伝えがありますが、実際は地元の漁民たちがお世話申し上げたと考えられます（鳩が八幡様の神使なのはこの言い伝えから起こったものかも知れませんが）。身重の体で海を渡り、多くの兵を統率し戦を進められた神功皇后のご苦労は、我々の想像を遥かに超えたものであったと思います。

この「お笑い神事」は大臣の武内宿禰（たけのうちのすくね）が皇子を抱きかかえ、「お笑い、お笑い」とあやしなからお顔を母君・神功皇后にお見せしている様子を表したものと伝えられています。

神事について

イ、神事の奉仕者

氏子の四区（西脇・下戸田・上戸田・上野）から毎年選出される「宮の頭人（とうにん）」である。
（任期は一年、区によっては複数年）

頭人は毎年十月の交代とし、西脇区と上戸田区は新旧の頭人が一名ずつ、下戸田区・上野区は新頭人二名が奉仕する。総人数は各区より二名、計八名となる。

（西脇区は新頭人（次年度頭人）を「提灯持ち」旧頭人（今年度の頭人）を「本頭人」という。）

※「提灯持ち」の名は、頭渡し神事（大祭七日前の夜齋行）の時に提灯を携えて神社に参進する事に由来する。

まず「提灯持ち」が神職から「八角棒」を受け取る。

「本頭人」は白扇を開き、右手に持つ。

イ、まず、頭人は各区ごとに、本頭人・提灯持ちの順で横一列に並び、神前に向かって一礼する。その後拝殿の真ん中で円形を組む。

ロ、円形になった後、「本頭人」は「白扇」を開き頭の高さ位に捧げ持つ。「提灯持ち」は「八角棒」を左肩に担ぐ。その後、一同左に向きを変える（時計回りにまわる形になる）。

ハ、各区ごとに本頭人・提灯持ちの順で円形を組んでいるので、見た目は、白扇と八角棒が交互に並ぶ形になる。

ニ、宮司の発声で頭人は白扇・八角棒を上下に動かしつつ「お笑い、お笑い、アッハッハー」と声高らかに愉快に笑いながら右回り（時計回り）に三回巡る。

終わると一同、神前に礼をし、八角棒を神職に返す。

口碑伝説によれば承平年間（朱雀天皇の時代・平安時代、九三一年〜九三八年）に始まったとされるが定かではない。